

チャンス・チャレンジ・チェンジ



相談・支援活動より



Q：子どもの問題行動は、わがまま？ それとも特性？

A：行動にはすべて意味がある、子どもは問題行動で語る、問題行動は子どもと環境とのミスマッチで起こると言われている。

どこまでがわがままで、どこからが生来的な特性なのか、はっきり線引きすることは難しい。家庭環境や周囲の友達関係が影響している可能性もある。

指導の基本は、目の前の子どもをよく見ること、声を掛けること、話を聴くことである。

指導の原則は、よいことをすればよいことが起こる、悪いことをすれば悪いことが起こるである。よいことをしたのに悪いことが起こる、悪いことをしたのによいことが起こる指導は誤学習につながる。

指導で分からないときは、子どもを見ることである。子どもが答えをもっているから。

Q：思い込みが強く、友達とのトラブルが多いB君への対応について

A：例：B君が廊下を歩いていると、急に友達がぶつかってきてトラブル発生！

1 B君の話を聞いて、気持ちを受け止めて、怒りを鎮める。「友達からぶつかってきたんだ、痛かったね。」

2 B君が冷静になったとき、相手の視点に切り替える言葉を掛ける。「友達は用事があったて急いでいたかもしれない、ぶつかったことに気付いていないかもしれない。」

3 お互いの気持ち（急にぶつかってきて痛かったB君、急いでいてぶつかったことに気付かなかった友達）をすり合わせる。

自分の気持ちを振り返り、それと相手の気持ちを伝えることで、少しずつ自分の視点から相手の視点でも考えられるように話していく。問題点はB君の気持ちを共感してから指導する。

Q：怒りをコントロールするコツは？

A：腹が立つのは起こったことのせいではない。起こることは（出来事）、自分ではコントロールできない。しかし、どう考えるかはコントロールできる。考え方を換えれば、気持ちをも変えることができる。

【怒りが生まれるまでの3段階】

- 出来事 例：机の上の筆入れを落とされた
- 出来事を考える（M君とK君を比較）

M君

K君

わざと落としたんだ

急いでいたんだ わざとじゃない

- 考え方が決まる

M君

K君



イラッ！
怒り爆発



まっいっか
怒りがない

【怒りを鎮める方法】

- ・気分転換→深呼吸 別室で休む 水を飲む 本を読む
- ・おまじない→なんとかなる、怒ってもしようがない
- ・お守り→ハンカチ、ミサガ、ズボンの折り目に触る
- ・柔軟な考え方→これしかないではなくいろいろある
- ・クールダウン→安全面に配慮して落ち着くまで待つ！

〈ある保護者の声〉

「特別支援学級に在籍している子どもや、その兄弟がいじめやかからかいの対象になるのではと不安である。」

「違い」は時として、いじめや差別を生む。「違い」が当たり前である以上、それぞれの考え方や感じ方の違いを認め、尊重することが大切である。特別支援学級を設置している学校は、多様性を認め合えるチャンスに変えてほしい。

さきがけ新報（11月29日）に障害のある兄をもつ中学生の作文が紹介されていた。「**友達の目を気にして兄を嫌っていた時期もあったが、今は兄の力になりたい、恩返しをしたいと思っています。僕は障がいがあるから生きづらい、暮らしにくいのではなく、社会全体がまだ障がいへの理解や対応が十分ではないのだと思います。障がい者にとって障害のある社会では、いけないのではないかと思います。**」

心のバリアを取り除くためには、教育が必要であり、いろいろな人がいることを知ることが心のバリアフリーの第一歩となる。